

徳島県南部における共同経営計画

令和4年3月3日

徳島県徳島市出来島本町一丁目25番地

徳島バス株式会社

香川県高松市浜ノ町8番33号

四国旅客鉄道株式会社

共同経営計画

徳島バス株式会社と四国旅客鉄道株式会社は、地域における一般乗合旅客自動車運送事業及び銀行業に係る基盤的なサービスの提供の維持を図るための私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律の特例に関する法律第9条及び第10条の規定に基づき、以下の事項及び内容について定めることとする。

1 申請者の名称	P 1
2 共同経営の対象とする区域	P 1
3 共同経営の対象とする路線	P 2
4 共同経営の内容	P 4
5 運賃の分配に関する事項	P 7
6 共同経営の目標	P11
(1) 収益性の向上にかかる目標	P11
(2) 基盤的サービスの維持にかかる目標 (サステナブルな地域旅客運送サービスの構築に向けた目標)	P13
7 実施期間	P15

【添付書類】

- (1) 協定の内容
- (2) 事業の概要
- (3) 収支の状況
- (4) 路線図及び運行系統図
- (5) 意見聴取の結果

1. 申請者の名称

徳島県徳島市出来島本町一丁目25番地

徳島バス株式会社

代表取締役 金原 克也

香川県高松市浜ノ町8番33号

四国旅客鉄道株式会社

代表取締役社長 西牧 世博

2. 共同経営の対象とする区域

阿南市、美波町、牟岐町及び海陽町の全域



3. 共同経営の対象とする路線

徳島バス「室戸・生見・阿南大阪線」：阿南駅～浅川（途中乗降区間内）

J R 牟岐線：阿南駅～浅川駅

注) 途中乗降について

J R 牟岐線では、利用者の減少等に伴い令和元年3月ダイヤ改正にて阿南駅以南の運行本数が減少。徳島バス株式会社は、徳島県南部地域の地域旅客運送サービスの利便性を確保することを目的として、令和元年3月より、徳島バス（室戸・生見・阿南大阪線）のJ R 牟岐線と並行する一般道を運行する阿南駅～甲浦間のバス停留所において、途中乗降を可能としている。このことから、本計画では徳島バスの一部区間に係る運送サービスを独占禁止法特例法上の基盤的サービスとして扱うこととしている。



国土地理院ウェブサイト「地理院地図（電子国土Web）」を加工して作成

【行為対象路線における運行系統一覧】

事業者	路線		起点	主たる 経由地	終点	計画区域内 起点	計画区域内 終点	キロ程	収支
徳島バス 株式会社	室戸・生 見・阿南大 阪線	①	南海なんば	徳島駅 阿南駅	室戸	阿南駅	浅川	52.9km	添付書類 参照
		②	南海なんば	徳島駅 阿南駅	生見	阿南駅	浅川	52.9km	
		③	南海なんば	徳島駅 阿南駅	橋営業所	阿南駅	橋営業所	5.3km	
四国旅客 鉄道株式 会社	牟岐線	④	徳島駅	阿南駅	阿波海南駅	阿南駅	浅川駅	50.9km	添付書類 参照
	牟岐線	⑤	徳島駅	阿南駅	牟岐駅	阿南駅	牟岐駅	43.2km	
	牟岐線	⑥	徳島駅	阿南駅	桑野駅	阿南駅	桑野駅	8.1km	
	牟岐線	⑦	牟岐駅	浅川駅	阿波海南駅	牟岐駅	浅川駅	7.7km	

※③の系統については、深夜・早朝便のため、途中乗降対象外

4. 共同経営の内容

徳島県南部地域の地域旅客運送サービスの利便性を向上させ、共同経営の対象となる路線の増収を図ることを目的として、四国旅客鉄道株式会社（以下「JR四国」という。）の乗車券類（普通乗車券、定期乗車券、回数乗車券、団体乗車券、特別企画乗車券の総称、以下「JR乗車券類」という。）により、徳島バス株式会社（以下「徳島バス」という。）の室戸・生見・阿南大阪線の途中乗降利用を可能とする（あらかじめ定めた区間）。なお、共同経営において生じる余剰は対象路線そのものの維持に充てることとする。

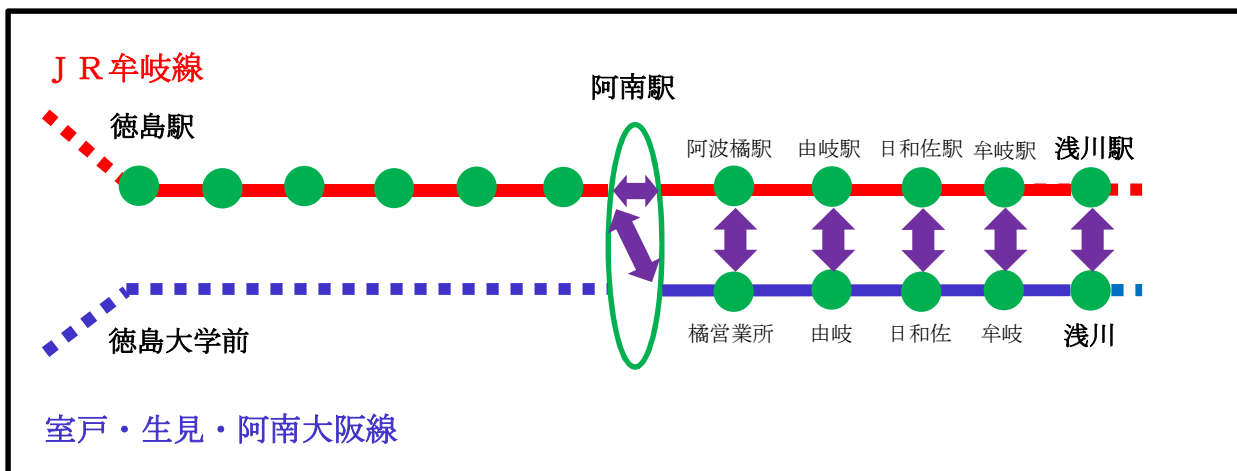
運賃設定の概要

対象となる阿南駅から浅川（浅川駅）までの区間において、JR乗車券類により、徳島バス途中乗降の利用を可能とする。また、阿南駅、阿波橋駅、由岐駅、日和佐駅及び牟岐駅にて鉄道とバスを乗継ぐ場合、JR乗車券類による通し運賃を適用する（対象区間の営業割引運賃の設定）。加えて、JR四国が運賃プールを行い、JR乗車券類で徳島バス途中乗降を利用したバス運賃の1/2をJR四国が徳島バスに支払う（※）。

※なお、JR乗車券類のうち、阿南駅～浅川駅間のみを有効区間とする普通乗車券については、徳島バスの運賃で精算を行うこととする。

通し運賃を適用する対象路線（区間）

※「3. 対象路線」に記載の路線と同様。

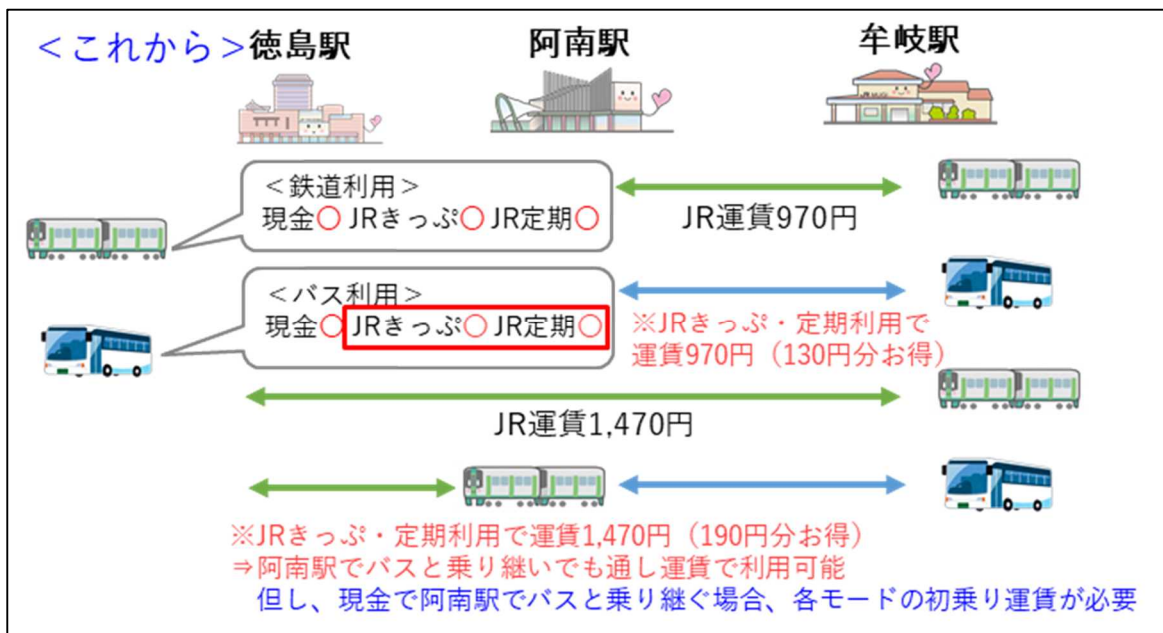
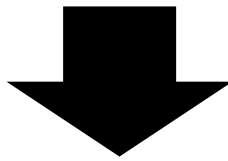
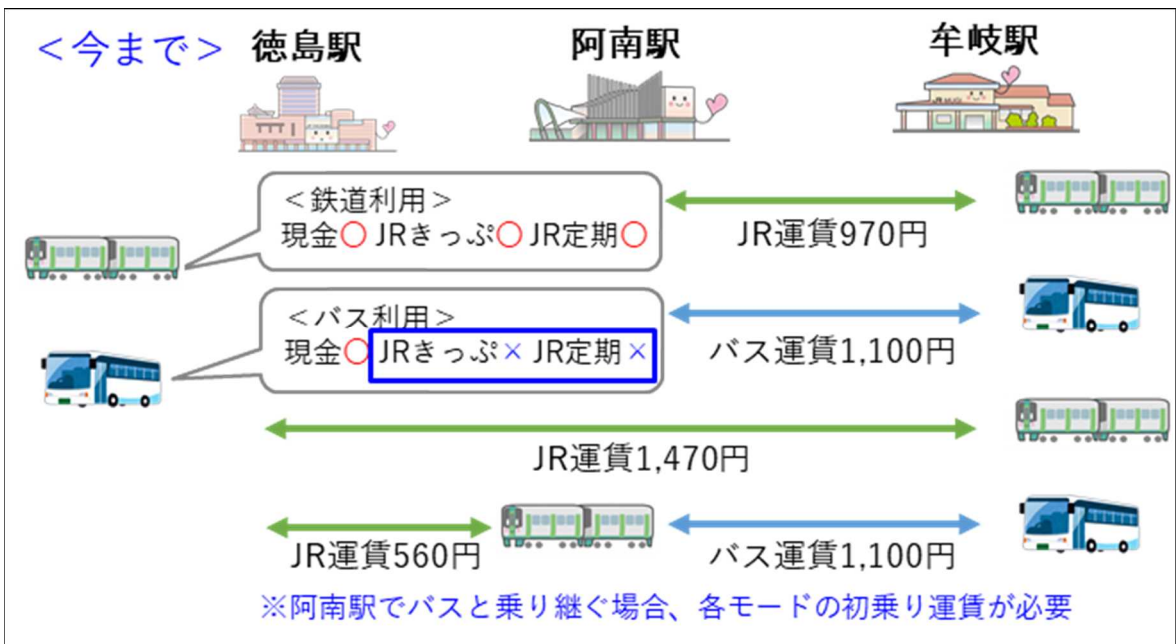


注) 対象路線は実線にて記載。

路線（区間）	運行会社
室戸・生見・阿南大阪線（阿南駅～浅川）	徳島バス
JR牟岐線（阿南駅～浅川駅）	JR四国

注) 阿南駅、阿波橋駅、由岐駅、日和佐駅及び牟岐駅で鉄道とバスを乗り継ぐ場合、通し運賃を適用する。但し、通しのJR乗車券類を所持する場合に限る。

実施する事業のイメージ



※イラストでは牟岐駅を記載しているが、先の浅川駅まで通し運賃の対象となる。

共同経営の対象となる区間の駅間の運賃表

①徳島バス

(単位：円)

					阿南駅		区間キロ
				橘営業所	300	橘営業所	5.39
		日和佐	由岐	400	500	由岐	15.05
	牟岐	300	700	800	日和佐	8.60	
浅川	400	600	1,000	1,100	牟岐	15.30	
	300	500	800	1,200	1,200	浅川	8.30

②JR四国

(単位：円)

					浅川
				牟岐	220
		日和佐		290	460
		由岐	220	490	670
	阿波橋	360	560	870	1110
阿南	210	460	670	970	1110

5. 運賃の分配に関する事項

(1) 運賃プールを適用する路線

路線：徳島バス：室戸・生見・阿南大阪線 阿南駅～浅川（途中乗降区間内）

J R 四国：牟岐線 阿南駅～浅川駅

※「3. 対象路線」に記載の路線と同様

(2) プールした運賃収入の分配基準とする要素とその考え方

運賃プール適用路線	バス：阿南駅～浅川 鉄道：阿南駅～浅川駅
運賃プールの対象となる共同経営の行為	徳島バスと J R 四国による J R 乗車券類の共通利用
プールした運賃収入の分配基準とする要素	共同経営に伴う利便性向上による J R 四国の増収想定額と徳島バスの増収相当額
考え方	<p>① 令和 2 年度に実施した実証実験（J R 定期保持者を対象とした徳島バス途中乗降を無料で利用できる実証実験）及び J R 牟岐線の利用実績等を基に、共同経営実施後の徳島バス室戸・生見・阿南大阪線及び J R 牟岐線の利用予測を算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳島バス室戸・生見・大阪阿南線の J R 乗車券類による途中乗降の利用想定については、令和 2 年度に実施した実証実験の利用実績を基に利用予測を算出。J R 牟岐線から徳島バス途中乗降利用への転換者数が計画期間最終年度において 243 人/年にのぼると想定。（※1） ・J R 牟岐線の利用想定は、令和元年 3 月ダイヤ改正における J R 牟岐線徳島駅～阿南駅間のサービス改善（運行本数の増便）前後の利用実績を参考に、計画期間を通して概ね 0.6% 増となると想定（※2）。令和 2 年度における阿南駅、阿波橋駅、由岐駅、日和佐駅、牟岐駅及び浅川駅の利用実績（駅乗車人員（人/日））を基に、計画期間最終年度において 205 人/年増加すると想定。 <p>② ①の利用予測を基に、J R 四国の増収想定額を算出するとともに、徳島バスが J R 乗車券類で旅客を輸送する役務を提供することにより本来得られた収入額（増収相当額）を算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳島バスと J R 四国の計画期間中（5 年間）の利用増による増収相当額及び増収想定額は以下のとおり。 <p>徳島バス：523,422 円（※3）【1】 J R 四国：412,050 円（※4）【2】</p>

③ 共同経営の実施に当たって生じる経費（J R乗車券類で徳島バスを利用した旅客の運賃）については、増収想定額と増収相当額を基準にJ R四国及び徳島バスで分担して負担することとし、J R四国から徳島バスへの配分額を決定する。

・増収想定額及び増収相当額を基準に、共同経営の経費（コスト）となるJ R乗車券類での徳島バス途中乗降の利用分（バス運賃相当額）を以下の考え方で分担する。

・増収想定額

J R四国：412,050円・増収相当額

徳島バス：523,422円

・増収比は徳島バス：J R四国で5:4程度となるが、

明瞭性に鑑み両者で協議のうえ、1:1の比率で分担することとする。

・J R四国から徳島バスへの配分額は、J R乗車券類での徳島バス途中乗降の利用分（バス運賃相当額）の2分の1となる。

④ J R四国がJ R乗車券類の販売によりプールした運賃収入から、上記比率に応じて、J R四国が徳島バスに対して配分額を支払うこととする。

※1 令和2年10月～令和3年2月、阿南駅以南のJ R牟岐線の定期保持者を対象に徳島バス途中乗降を無料で利用できる実証実験を実施。

✓実証期間利用回数62回（151日）

これにより、J R通学定期保持者の徳島バス途中乗降利用者数は計画最終年度で150人/年増と想定。J R牟岐線阿南駅以南における令和2年度定期利用者数（通学定期225人、通勤定期63人）とそれ以外の利用者数（76人）の比率（288：76（平均通過人員（人/日））により、徳島バス途中乗降の定期利用者とそれ以外の利用者についても同じ割合と想定。定期利用者（ $150 \times 288 / 225 = 192$ 人）とそれ以外の利用者（ $76 \times 192 / 288 = 51$ 人）を合算すると、徳島バス途中乗降の利用者は計画最終年度で243人/年増と想定。

※2 平成31年3月ダイヤ改正（J R牟岐線の徳島駅～阿南駅間の増便（運行本数8本の増便））前後において、J R牟岐線の定期外利用者が0.6%増加。

共同経営の実施により、J R乗車券類で徳島バス途中乗降が利用可能となることは、鉄道の増便と同じ利用促進効果があると想定する。

※3 令和4年度：49人増×718円= 35,182円

令和5年度：97人増×718円= 69,646円

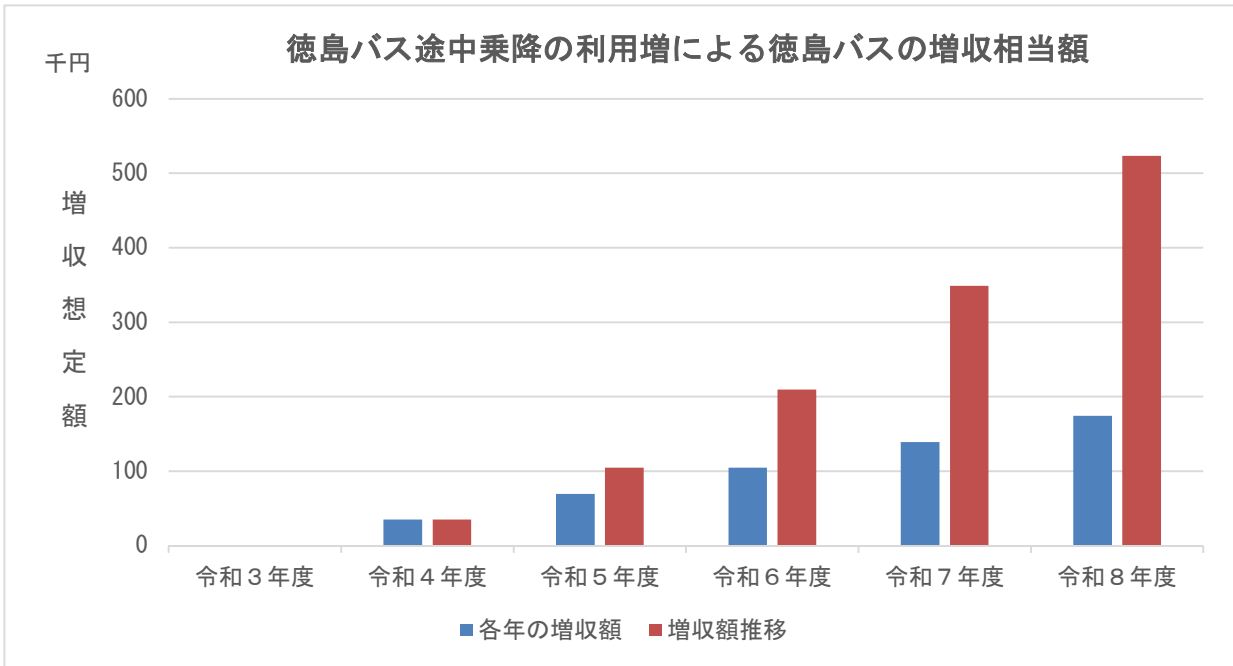
令和6年度：146人増×718円=104,828円

令和7年度：194人増×718円=139,292円

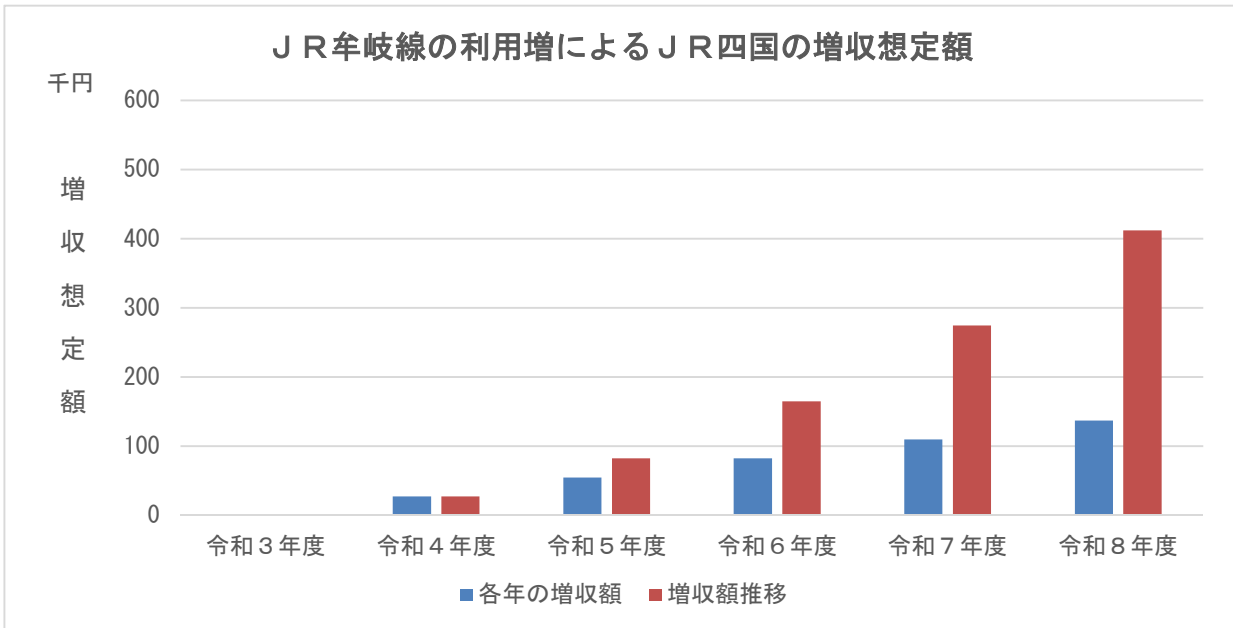
令和8年度：243人増×718円=174,474円

	<p style="text-align: center;">合計：523,422 円</p> <p style="text-align: center;">✓718 円：徳島バス途中乗降無料実証実験における平均利用額</p> <p>※4 令和4年度：41人増×670円= 27,470 円 令和5年度：82人増×670円= 54,940 円 令和6年度：123人増×670円= 82,410 円 令和7年度：164人増×670円=109,880 円 <u>令和8年度：205人増×670円=137,350 円</u></p> <p style="text-align: center;">合計：412,050 円</p> <p style="text-align: center;">✓670 円：中間距離地点であり、徳島バス途中乗降の利用が比較的多い 阿南駅～日和佐駅間運賃を採用</p>
--	---

【1】



【2】



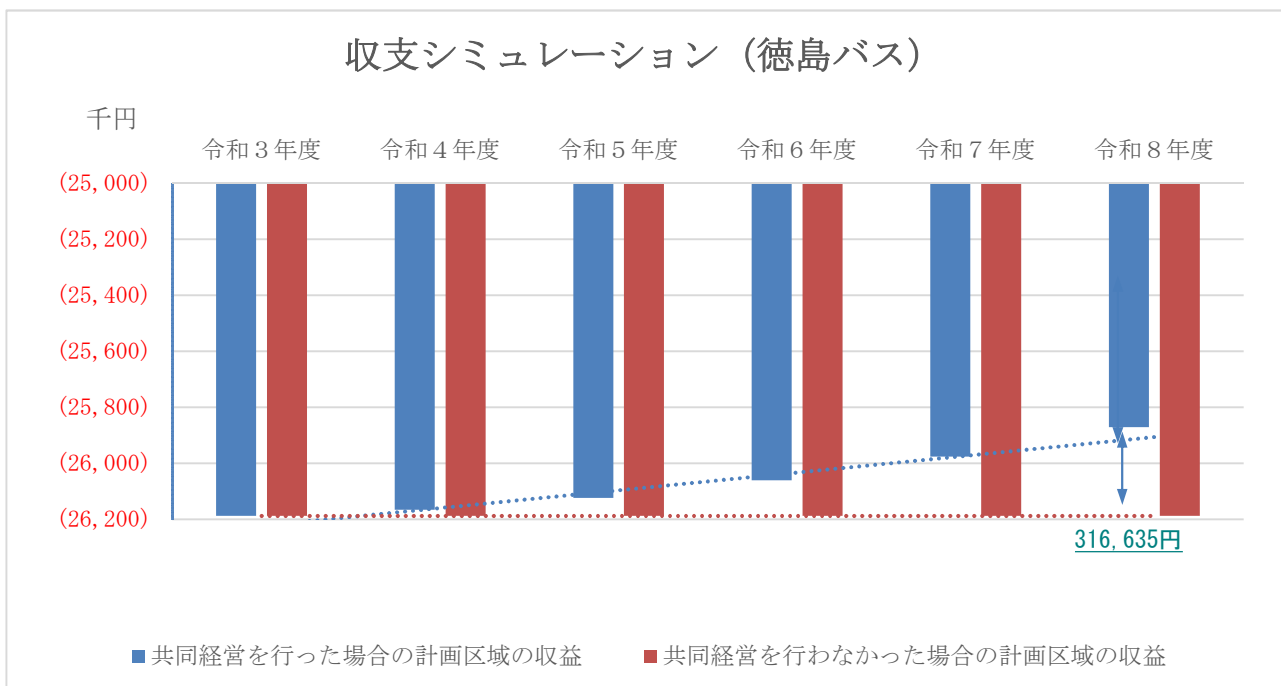
6. 共同経営の目標

共同経営による全体としての利便性の向上により、5. (2) [2] 「J R 牟岐線の利用増による J R 四国の増収想定額」のとおり増収を見込む。この場合の増収分（余剰）の約 77% を徳島バスに充当し、室戸・生見・阿南大阪線（基盤的サービス）の維持等に充てることとする。

(1) 収益性の向上にかかる目標

運賃面での連携に伴う利便性向上により、徳島バスへの利用転換及び沿線の利用者数の増加を考慮し、収支を算出。

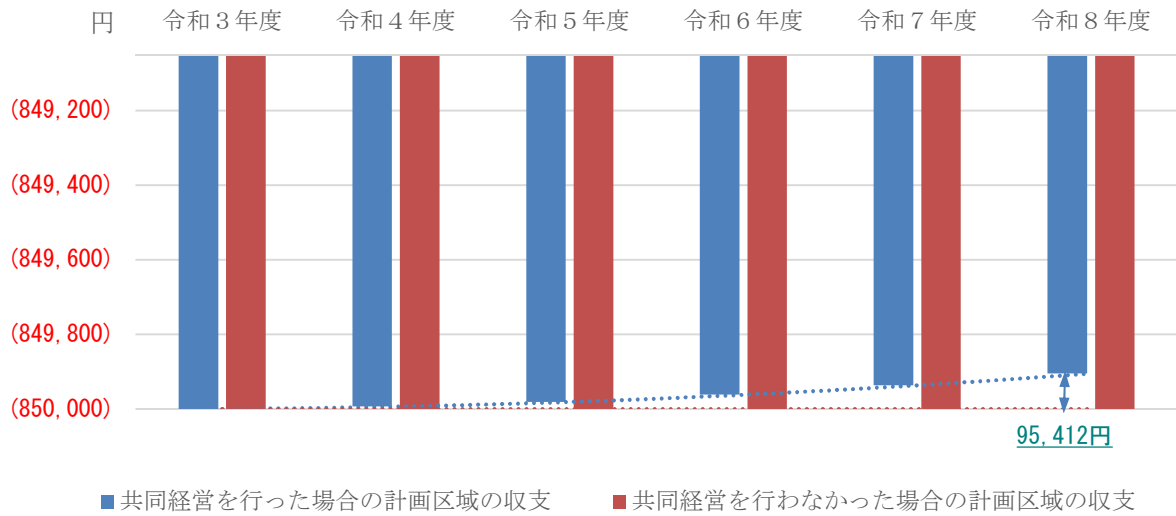
・徳島バス及び J R 四国の計画区域内の収支シミュレーション



【徳島バス】

- ・令和2年度に実施した実証実験結果をもとに、J R 牟岐線から徳島バス途中乗降利用への転換者数を算出。
- ・室戸・生見・阿南大阪線の経常損益の中から「阿南駅～浅川」の経常損失を算出。
- ・共同経営を行わなかった場合は、経常損失は改善しないと想定。
- ・共同経営を行った場合は、利便性向上にかかる効果により利用者が増加し、増収となる見込み。
- ・同旅客を輸送する役務を提供することにより本来得られた収入額（増収相当額）を算出すると、523,422円となる。
- ・J R 四国がプールした運賃を徳島バスに配分する額は、J R 乗車券類（阿南駅～浅川駅間のみを有効区間とする普通 J R 乗車券を除く。）による徳島バスの利用者が、5年間で192人増加すると想定されるため、413,568円の2分の1の206,784円となる。
- ・なお、徳島バスの運賃で精算を行うこととなっている阿南駅～浅川駅間のみを有効区間とする普通 J R 乗車券を利用して、J R 牟岐線から徳島バス途中乗降利用への転換者数は、計画最終年度で51人、精算額は109,854円（ $51 \times 1/5 \times 718 + 51 \times 2/5 \times 718 + 51 \times 3/5 \times 718 + 51 \times 4/5 \times 718 + 51 \times 5/5 \times 718 = 109,854$ ）になると想定される。
- ・増収により、206,784円+109,854円=316,638円の経常損失が減少すると想定。

収支シミュレーション（JR四国）



【JR四国】

- ・令和元年3月ダイヤ改正における定期利用者の増加率をもとに増加する利用者を算出。
- ・JR牟岐線阿南駅～海部駅間の平成25～29年度平均値により経常損失を算出。
- ・共同経営を行わなかった場合は、経常損失は改善しないと想定。
- ・共同経営を行った場合は、利便性向上にかかる効果により利用者が増加し、増収となる見込み。
- ・利用者増に伴う運賃増数想定額は、412,050円となる。
- ・JR四国がプールした運賃のうち徳島バスに対して配分する額は206,784円、阿南駅～浅川駅間のみを有効区間とする普通JR乗車券の利用分の精算額は109,854円になると想定される。
- ・増収により、 $412,050 - 206,784 - 109,854 = 95,412$ 円の経常損失が減少すると想定。

【上り】

鉄道及びバス

駅	停留所	鉄道	鉄道	鉄道	鉄道	鉄道 特急	鉄道	鉄道	バス	バス	バス	バス	バス	バス	バス	バス	バス	バス	バス	バス	運行本数 (本)	運行間隔計 (分)	平均運行間隔 (分)	
法川駅	法川				6:49				7:58	8:21	9:23		12:11	14:11		15:53	16:11	16:58	17:30	18:34	20:37	12		
運行間隔(分)									69	82	62		168	120		102	18	47	32	64	123		897	81
牟岐駅	牟岐	5:50		6:28	6:57	7:00	7:14		8:11	8:44	9:36	10:23	12:23	14:23		16:06	16:23	17:11	17:41	18:46	20:52	16		
運行間隔(分)				38	着	32	14		57	33	62	47	120	120		103	17	48	30	65	126		902	60
日和佐駅	日和佐	6:07		6:46	=	7:13	7:31		8:31	9:02	9:56	10:40	12:40	14:40		16:26	16:40	17:31	18:03	19:06	21:10	16		
運行間隔(分)				39		27	18		60	31	54	44	120	120		106	14	51	32	63	124		903	60
由岐駅	由岐	6:19		7:03		7:22	7:42		8:46	9:13	10:11	10:52	12:52	14:52		16:41	16:54	17:46	18:16	19:19	21:22	16		
運行間隔(分)				44		19	20		64	27	58	41	120	120		109	13	52	30	63	123		903	60
阿波橋駅	橋営業所	6:40	7:07	7:26		7:40	8:04	8:35	9:13	9:35	10:38	11:13	13:13	15:13	16:13	17:08	17:15	18:13	18:39	19:41	21:43	19		
運行間隔(分)			27	19		14	24	31	38	22	63	35	120	120	60	55	07	58	26	62	122		903	50
阿南駅	阿南	6:46	7:13	7:33		7:45	8:10	8:41	9:30	9:41	10:55	11:19	13:19	15:19	16:19	17:30	17:21	18:35	18:44	19:46	21:49			
																					計	4508	62	

鉄道のみ

駅	鉄道	鉄道	鉄道	鉄道	鉄道 特急	鉄道	鉄道	鉄道	バス	バス	バス	バス	バス	バス	バス	バス	バス	バス	バス	バス	運行本数 (本)	運行間隔計 (分)	平均運行間隔 (分)		
法川駅					6:49					8:21			12:11	14:11				16:11		17:30	18:34	20:37	8		
運行間隔(分)										92			230	120				120		79	64	123		828	118
牟岐駅	5:50		6:28	6:57	7:00	7:14			8:44		10:23	12:23	14:23					16:23		17:41	18:46	20:52	12		
運行間隔(分)				38	着	32	14		90		99	120	120					120		78	65	126		902	82
日和佐駅	6:07		6:46	=	7:13	7:31			9:02		10:40	12:40	14:40					16:40		18:03	19:06	21:10	12		
運行間隔(分)				39		27	18		91		98	120	120					120		83	63	124		903	82
由岐駅	6:19		7:03		7:22	7:42			9:13		10:52	12:52	14:52					16:54		18:16	19:19	21:22	12		
運行間隔(分)				44		19	20		91		99	120	120					122		82	63	123		903	82
阿波橋駅	6:40	7:07	7:26		7:40	8:04	8:35		9:35		11:13	13:13	15:13	16:13				17:15		18:39	19:41	21:43	15		
運行間隔(分)			27	19		14	24	31	60		98	120	120	60				62		84	62	122		903	64
阿南駅	6:46	7:13	7:33		7:45	8:10	8:41		9:41		11:19	13:19	15:19	16:19				17:21		18:44	19:46	21:49			
																					計	4439	85		

7. 共同経営の実施期間

令和4年4月1日～令和9年3月31日

以上